

○アンスロビンP注射用, ○献血ノンスロン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】乾燥濃縮人アンチトロンビンIII (U) human anti-thrombin III, freeze-dried concentrated 【分類】血液凝固阻止剤 [AT-III 製剤]

【単位】○500IU・▼1500IU/V

【常用量】DIC: 1500 単位/日 (30 単位/kg)

【用法】緩徐に静注もしくは点滴静注 (ヘパリン持続投与下) [添付溶解液は10mL注射用水] ■通常, 30分ポンプ注で投与している (5)

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (1)

【特徴】血中のトロンビン、活性X因子 (Xa: プロトロンビンをトロンビンに転化)、IXa 因子 (X 因子を Xa に転化) 等の活性型凝固因子と1分子対1分子の割合で不可逆的に結合してその作用を中和する。DIC の血栓形成を速やかに是正し、出血傾向を助長しない。特定生物由来製品。

【主な副作用・毒性】ショック・アナフィラキシー、出血、胸部不快、悪寒、発熱、好酸球増多、嘔吐など

【モニターすべき項目】アンチトロンビンIII 活性、凝固系

【t1/2】2~3日。DIC では短縮し、ヘパリンと同時投与した場合、外科手術後にも短縮 (U) 61±23hr (1)

【MW】58000

【透析性】分子量が大きいため透析では除去されない (5)

【TDM のポイント】TDM の対象にはならない【薬物動態】上皮組織に結合し、血管外分画に再分布することによって血中から消失する。またアンチトロンビン III と凝固因子との複合体は肝細胞の特異的受容体に結合することによって循環血中から急速に消失する。ATIII 上昇率 1.01±0.30%/単位/kg [2000~6000 単位投与時] (1)

【備考】溶解後速やかに使用し、他剤との混注は避ける (1) 1500 単位 1 日 1 回よりも 500 単位 1 日 3 回投与が投与後の AT3 活性値が有意に高い (笹尾健一郎: Coagulation & Inflammation 1:30:33, 2007) 血清アルブミン値と AT-III 製剤投与後の AT-III 活性は正相関する (Aibiki M, et al: Shock 27:139-144, 2007)

【更新日】20170921

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。